

# 医用画像診断システムで 医療現場を支える

海外発注可  
納期相談  
オンライン技術  
メイトインジャパン

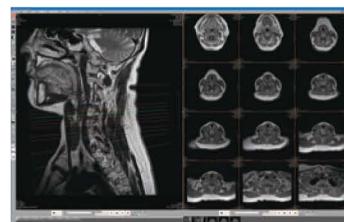


「climb\_mammary」製品画像

同社が今、力を入れているのが「マンモグラフィ専用ビューワー」だ。これは乳がん検査に使われる画像診断システムで、平成17年に国内で初めて実用化に成功した。

「開発のきっかけは私の個人的な思いです。身近に乳がんに苦しむ人がいて、医療に携わる私が何とかしなければと使命感に駆られたのです」と山本社長は振り返る。

**製品特長**  
**乳がん診断用システムを  
国内初で開発**



「Radiology」の画像

世界標準のDICOM規格に対応し、特定のメーカーにとらわれないオープンなシステム環境を提供している。

主な製品は「循環器系動画像ビューワー」「マンモグラフィ専用ビューワー」「マルチモダリティ画像ビューワー」の3つ。全製品が「マンモグラフィ専用ビューワー」の3

システム（医用画像診断システム）を開発している。医師が診断するためのシステム（医用画像診断システム）を行ったように、医療の世界でもレントゲンを始めとした画像診断のデジタル化が進んでいる。クライムメディカルシステムズは、デジタル撮影された患部の画像や動画をコンピュータの画面に映し出し、医師が診断するためのシステム（医用画像診断システム）を開発している。

カメラがフィルムからデジタルに移行したように、医療の世界でもレントゲンを始めとした画像診断のデジタル化が進んでいる。クライムメディカルシステムズは、デジタル撮影された患部の画像や動画をコンピュータの画面に映し出し、医師が診断するためのシステム（医用画像診断システム）を開発している。

授の意見を取り入れながら「から設けで表示するシステムを開発した。左右対称で乳房の状態が診断できるため、異常が発見しやすくなった上に、解像度を約3倍（1500万画素1276階調）に引き上げることで高画質化も実現、これまで以上に精度の高い診断が可能となつた。

**10年以上の安定稼働で  
医療機関から高い信頼  
強み**

マンモグラフィ専用ビューワーは平成24年6月現在、全国60数施設で80数台が稼働しており、マンモグラフィ専用読影システムとしては国産では国内トップシェアを誇る。こうしたシステムは不具合がよく発生するが、「私の信念は『安心して使えるシステム』を開発すること。不具合を徹底的に潰していくので、当社のシステムはとにかく壊れません」と自負する。国立循環器病研究センターに導入した循環器ネットワークシステムは10年以上も安定稼働を続ける等、医療機関からの信頼は厚い。

今後も国内マーケットを最優先に新たな製品開発に注力する中、海外展開も検討中だ。「海外の展示会に行くと当社の製品の方が高性能だとわかる。当社の製品の方が高性能だとわかってきた。海外も十分狙える位置にいますよ」と先を見据える。

**今後の展望**  
**海外展開も視野に愚直に  
製品開発を続ける**



独立前はレントゲンフィルム用カメラの技術者をしていましたが、「デジタルデータを扱う医療機器を開発したい」との思いで当社を立ち上げました。ソフトウェアの開発技術を独学で身につけて、初めて開発したのが「循環器動画ネットワークシステム」。地元の国立循環器病研究センターからも「大阪のベンチャー企業を育てたい」と依頼を受け、共同開発に取り組んでいます。

世の中にはない製品の開発に挑戦し、不可能を可能に変えるのがポリシーです。

代表取締役 山本 登さん

**■主な事業内容**  
医用画像診断ネットワークシステムの開発等

住 所／〒560-0082  
豊中市新千里東町1-4-2  
千里ライフサイエンスセンタービル10F  
T E L／06-6835-8055  
F A X／06-6835-8056  
創 業／平成5年11月  
設 立／平成8年10月  
資本金／1,000万円  
従業員／16名

<http://www.climb-ms.com/>



ISO 13485